

科目名		授業形態	担当教員名	
運動療法学 I		講義	福林 秀幸	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 2 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
筋および関節、その他の症状・障害の原理を理解し、治療における根拠を持った運動療法プログラムの立案ができることを目標とする。できる限り実技を取り入れ、講義を進行する。				
授業の到達目標				
運動療法の目的・原理を理解しまずは基本的な技術としてコンディショニング、関節可動域制限、筋機能障害、協調運動障害、基本動作の指導に関する知識・技術を理解する。また感覚障害、産科領域、高齢者、健康増進分野の概略についても理解する。障害像に合わせて治療項目や方法を考えることができる。				
授業計画				
回	内容			
1	運動療法の基礎・リスク管理			
2	コンディショニングのための手段運動学習について			
3	関節可動域制限に対する運動療法 (1)			
4	関節可動域制限に対する運動療法 (2)			
5	関節可動域制限に対する運動療法 実技			
6	筋機能障害に対する運動療法 (1)			
7	筋機能障害に対する運動療法 (2)			
8	筋機能障害に対する運動療法 実技 小テスト 1回目			
9	基本動作能力・歩行能力再獲得のための運動療法 (1)			
10	基本動作能力・歩行能力再獲得のための運動療法 (2)			
11	基本動作能力・歩行能力再獲得のための運動療法 実技			
12	協調運動障害(運動失調とバランス機能障害)に対する運動療法			
13	産科領域における腰痛と尿失禁に対する運動療法			
14	感覚障害に対する運動療法			
15	高齢者の運動療法 健康増進のための運動療法 小テスト2回目			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%			
レポート				
小テスト	20%			
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動療法学	石川 朗 他		中山書店	
運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版	市橋 則明		文光堂	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				
この授業では、理学療法の根幹となる「運動療法」の基礎と基本的な症状に対しての治療方法について学んでいきます。運動学、物理学などの知識を用いて講義を進めて行きます。1年次の復習なども行いながら講義を受講してください。				